

厚生労働科学研究費補助金
エイズ対策研究事業

性の健康相談室を通じた市民のSTD/HIV感染調査と
HIV感染予防に関する研究

平成15年度 総括研究報告書

主任研究者 阿曾 佳郎

平成16(2004)年3月

目 次

I. 総括研究報告	
性の健康相談室を通じての市民のSTD/HIV感染調査とHIV感染予防に 関する研究	3
阿曾佳郎	
（資料）1. 研究分析結果図表	7
2. 健康相談室・相談者 検査結果集計結果	14
3. 健康相談室・相談者 質問票とその集計結果	15
4. 相談前質問用紙／相談後質問用紙	16
5. カルテ（男性用／女性用）	22
6. 性感染症検査同意書	30
II. 研究成果の刊行に関する一覧表	31
III. 研究成果の刊行物・別刷	35
1. 性感染症STDってなんだ?!	37
IV. エイズ対策研究推進事業	
研究成果等普及啓発事業（北九州、東京のSTD/HIV市民公開講座結果報告）	53

I. 総括研究報告

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
総括研究報告書

性の健康相談室を通じての市民のSTD/HIV感染調査とHIV感染予防に関する研究

主任研究者 阿曾 佳郎 （財）性の健康医学財団 会頭

研究要旨

我が国における HIV 感染は増加傾向にあり、10 年後には蔓延する危険が予告されている。それを防止することは、焦眉の急である。一方、STD と HIV 感染との強い相関が示され、性感染症としての HIV 感染の予防を考えると、STD を予防することは、とりもなおさず HIV 感染の予防につながると信じられる。

そこで、本研究では性的活動が活発な若い人たちが利用しやすいツールである E メールによる“性の健康相談”での性の悩みについての相談、啓発を通して、また、より具体的に“性の健康相談室”での相談、検診を通して STD/HIV 感染の発見に努め、感染予防に貢献することを目的とした。

STD/HIV 感染への正しい知識を与え、予防に結びつくように、インターネット、モバイル・メールによる“性の健康メール相談”で専門の相談員が個別に応答した。また、“性の健康相談室”においては、来訪した相談者に対し、専門の医師が身体的な検診と共に、淋菌、クラミジア、HIV、HPV(女性のみ)、梅毒、HSV、HBV、HCV の検査を行った。その際、相談前後の質問票により相談による啓発の程度の評価を試みた。

その結果、E メールによる“性の健康メール相談”には6か月間で2,017件の相談があり、多くの反響があった。また、“性の健康相談室”には約5か月間で44人の相談者が来訪した。その情報取得手段としては、ホームページ（携帯サイトを含む）が44人中36人であった。STD/HIV 感染の診断は、のどの拭い液で淋菌(陽性)が2人、クラミジア IgA(+)6人、IgG(+)13人、IgG(±)3人、クラミジア抗原(陽性)3人、梅毒抗体(+)1人、HPV 中～高リスク(陽性)6人、低リスク(陽性)1人。また、HSV1型抗体(+)20人、(±)1人、HSV2型(+)4人。相談前後の知識状況については、相談前が平均8.8点、相談後が平均9.1となり、ある程度の啓発の効果があったといえよう。

STD/HIV 感染は単にわが国だけではなく、国際的にも大きな問題であるにもかかわらず、これを予防する手段は具体的に示されていない。結論として、本研究で行った“性の健康メール相談”、“性の健康相談室”を通じての相談、検診、啓発は、STD/HIV 感染の調査、予防を目指す上で大きな方向を示すものであり、その意義は大きなものとする。さらに今後、各種のセミナー・講演会との連携、また、教育団体との接触をもち、正しい性教育を普及し、さらには保健所、診療所、病院と連携し、感染予防のみならず、治療とも結びつける意義は大と考える。

分担研究者：

- 松田 静治（江東病院 顧問）
小島 弘敬（（財）性の健康医学財団 評議員）
山崎 修道（（株）三菱化学ビーシーエル感染症部門 指導監督医）
小野寺昭一（東京慈恵会医科大学 教授）
熊本 一朗（鹿児島大学医学部 教授）
岡 慎一（国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター臨床研究開発部 部長）
根岸 昌功（東京都立駒込病院感染症科 部長）
堀口 雅子（性と健康を考える女性専門家の会 会長）

A. 研究目的

将来のSTD/HIV感染の蔓延を防止するための焦眉の急は、性的に活発な若年層へのSTD/HIV感染についての啓発と予防である。一方、性感染症としてのHIV感染の予防を考えると、STDとの強い相関は疑いのないところであり、STDを予防することは、とりもなおさずHIV感染の予防につながると信じられる。（図1～2参照）

そこで、本研究においては、第一にEメールによる“性の健康相談”（“性の健康メール相談”）を通して性の悩みについての相談に対応し相談者が抱える悩みや問題を明確化し、今後の効果的な予防啓発の方法を検討する。第二に、主任研究者が代表を務める（財）性の健康医学財団内の一角に“性の健康相談室”を開設し、STD/HIV感染について相談し、検診を受けることができるシステムを確立した。このシステムを通し、STD/HIV感染の調査、予防啓発に努め、将来のSTD/HIV感染の予防に貢献することが本研究の目的である。

B. 研究方法

1) “性の健康メール相談”：

ホームページ、リーフレットで本相談について広く紹介した。専属の相談員が週日、

日中常時待機し、分る範囲でできる限り早く、質問に対する回答をした。

2) “性の健康相談室”を通しての相談、検診、啓発：

来訪する相談者に十分配慮した、プライバシーを保てる快適な相談・検診室を開設した。ホームページ、都内保健所、区役所等を通して、また、講演会等集会時にリーフレット、メッセージ・カードにより、匿名・無料・完全予約システムの本相談室について宣伝に努め、相談者を募った。

相談は、本研究班研究者を中心とした医師が担当した。開室時間は通常週日2回午後6時から8時、土曜日午前10時から午後2時であった。予約制で、1人の相談者に1時間かけ、満足のいく相談・検診を心掛けた。

相談者は登録後、STD/HIV感染についての相談前質問票を記入の後、相談、検診を終え、さらに相談後質問票に記入した。相談前後の質問票の評価で、相談による啓発の程度の評価を試みた。

検診は身体的な検診と共に、淋菌、クラミジア、HIV、HPV（女性のみ）、梅毒、HSV、HBV、HCVの検査を行った。検査

法は、血清については HIV 抗体・抗原(スクリーニング)：EIA 法、梅毒定性：TPHA 法 / ガラス板法、クラミジアトラコマチス抗体：IgA/IgG ((EIA 法)、HCV 抗体 3：1 RMA、HBs 抗原：CLIA、HSV 1 型・2 型 (EIA 法)。スワブまたは尿については、クラミジアトラコマチス：ロシユ PCR、淋菌同定 DNA：ロシユ PCR、HPV-DNA 同定、HSV 特異抗原検出。

また、分かりやすい STD のパンフレットを手渡し、正確な STD に関する知識の普及啓発を図った。

さらに、啓発効果測定のための WEB アンケートのシステム構築にも着手した。

(倫理面への配慮)

E メールならびに相談室への来訪者については、完全にプライバシーを守られ、個人が同定されることはない。検査の実施とその結果の報告については来訪者の同意を得ると共に、結果の通知法についても個人の意志を尊重した。

C. 研究結果

“性の健康メール相談”、“性の健康相談室”を通しての相談、検診、啓発共に、今年度は研究期間が短いため十分な結果が出ていない。

1) “性の健康メール相談”：

平成 15 年 7 月 1 日から 12 月 31 日までの結果をまとめると、相談総件数は 2,017 件。

相談曜日別では日曜から土曜まで 12～17%で、月、火曜日、及び木曜日が多い。(図 3 参照)

性別は男 26%、女 62%、不明 12%。年代別では 15～19 歳が最も多く約 1/3 を占め

た。次に 20～24 歳が 400 人と多かった。(最年少 13 歳、最年長 70 歳)。(図 4～5 参照)

相談内容としては、多い順に「自覚症状」に関するもの 45.2%、「おりもの」16.4%、「検査法・治療法」15.2%、「感染経路」12.9%、「その他」、「性器」、「クラミジア」・・・となっている。(表 1 参照)

2) “性の健康相談室”を通しての相談、検診、啓発：

平成 15 年 10 月 25 日より平成 16 年 3 月 15 日の約 5 か月間に 44 人の相談者が来訪した。年齢は 18 歳から 62 歳に及び、20 歳代が 24 人で全体の半数以上を占めたが、その内、女性が 15 人と多い。次に多いのが 30 歳代であるが、11 人中、9 人は男性であった。全体の性別内訳は男性 23 人：女性 21 人であった。(図 6～7 参照)

また、婚姻別では未婚 31 人、既婚 13 人(別居 1、離婚 3、同棲 1 を含む)。現在のパートナー数では、単数が 24 人と多いが、過去のパートナー数をみると、殆どが複数のパートナーを持っていた。(図 8～9 参照)

情報取得手段としては、ホームページ(携帯サイトを含む) 36 人、友人・知人 5 人、保健所 2 人、雑誌 1 人。(図 10) 参照

相談前後の知識状況については、前の点数は 5～10 点、平均 8.8 点、後の点数は 2～10 点、平均 9.1。前の 10 点取得者は 14 人、後の 10 点取得者は 20 人。前後 10 点取得者は 4 人。ある程度の啓発の効果がみられた。

STD/HIV 感染の診断については、のどの拭い液で淋菌(陽性)が 2 人、クラミジア IgA(+)6 人、IgG(+)13 人、IgG(±)3 人、

クラミジア抗原（陽性）3人、梅毒抗体（+）1人、HPV 中～高リスク（陽性）6人、低リスク（陽性）1人。また、HSV1 型抗体（+）19人、（±）1人、HSV2 型（+）3人。

D. 考察

STD/HIV 感染の問題だけでなく、一般に性の問題は人間が生きていく上で極めて重要な問題であるにもかかわらず、プライバシーが大きく関わり、適切に処理されてなかったのが過去及び現状でもある。そのため STD/HIV 感染の亡国病としての憂いも出てきている。その点で、“性の健康メール相談”は性的に活発な若年層の STD/HIV 感染予防啓発、正しい性知識の普及に大いに役立っていると考えられる。そのことは増加する質問者数に反映されている。

さらに、メールによるだけでは満足しない人は、“性の健康相談室”に来院して、STD/HIV 感染について詳細な説明を受けると共に、検診を受けた上で、悩みについての適切な回答を得ている。このことは、相談後の多くの人々が相談について満足、感謝の意を表するコメントをしていることにもよく示されている。啓発の効果のあることは、相談前後の質問表の点数にも表われている。活動性の STD の診断は 6/44 であったが、将来、相談者が増加すれば、頻度が高くなることが予想される。

E. 結論

“性の健康メール相談”、“性の健康相談室”を通じての STD/HIV 感染の調査、予防啓発について、短期間ではあるが、ある程度の効果をあげることができたと自負している。

今後は、教育機関との密接な連携による正しい性教育の普及にも努める必要がある。このことが隠れた性の問題を解決するために是非必

要なことである。さらに、保健所、診療所、病院とも十分な連携をとり、世界に範となる STD/HIV 予防、診断、治療システムの確立に努めたい。

以上、まとめたように“性”の問題という特殊性から、STD/HIV 感染予防啓発は簡単ではないが、“性の健康メール相談”及び“性の健康相談室”への反応から、インターネットというツールを有効に活用すれば、道が開かれるのではないだろうか。本研究班は、今後の予防啓発の方向性について手ごたえを感じ、本格的な研究に着手し始めたところで中止を余儀なくされた。まことに残念ではあるが、今後は別の方途により研究を続けようと思っている。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

- | | |
|-----------|----|
| 1. 特許取得 | なし |
| 2. 実用新案登録 | なし |
| 3. その他 | なし |

図1. HIV感染者数と性器クラミジア罹患率の年次推移

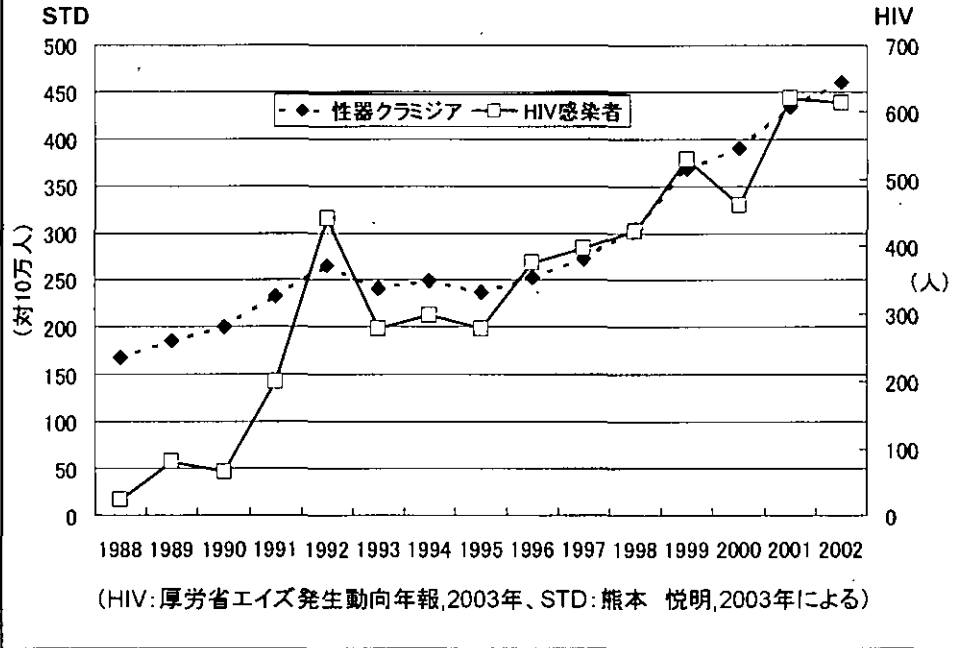
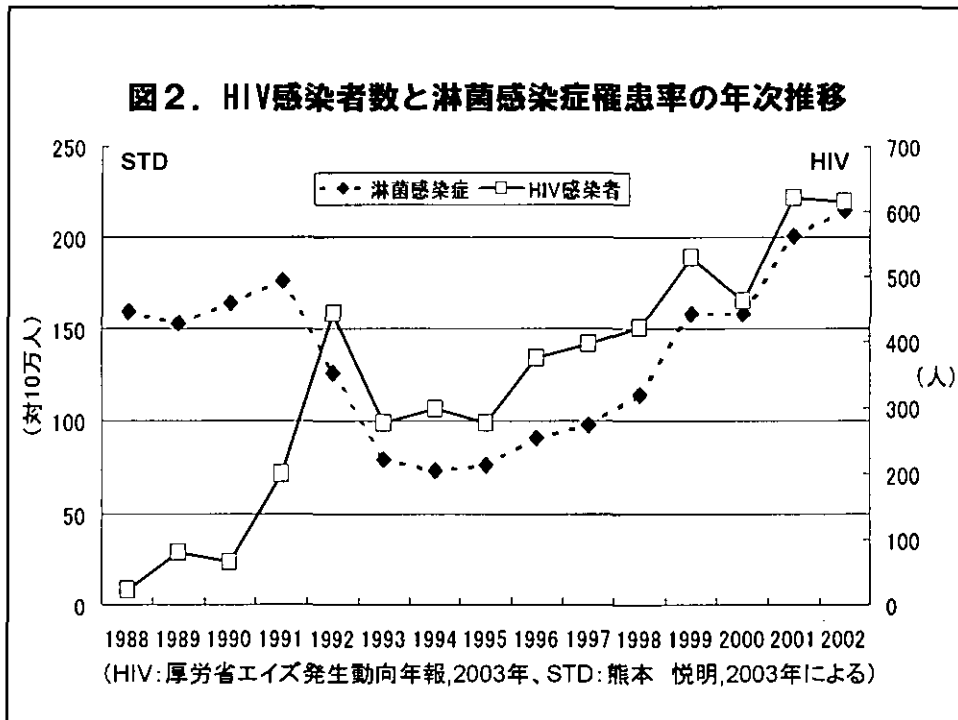


図2. HIV感染者数と淋菌感染症罹患率の年次推移



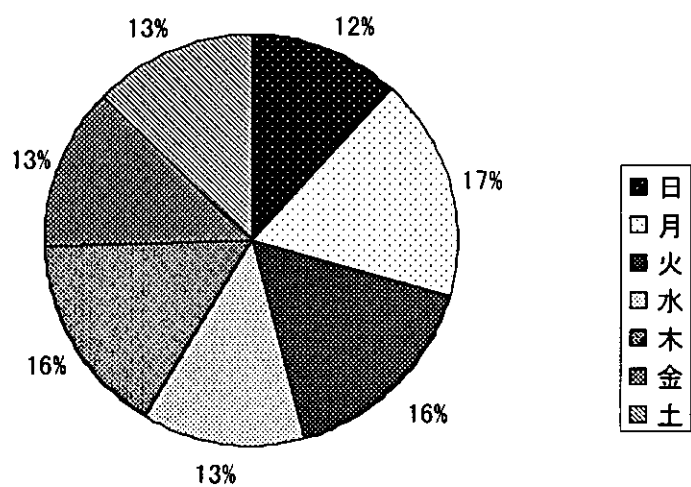


図3 曜日別件数

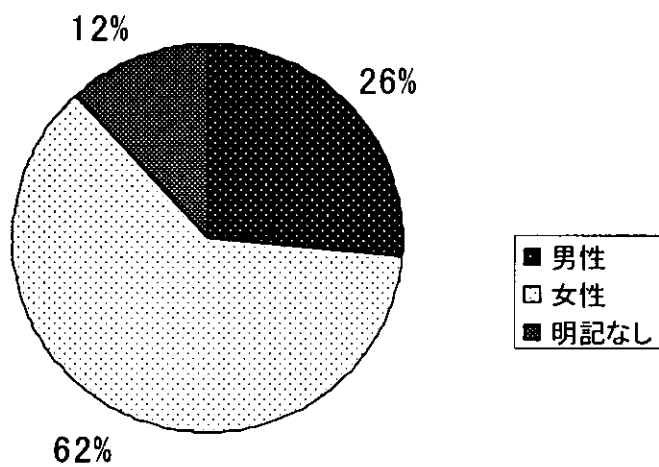


図4 ジェンダー

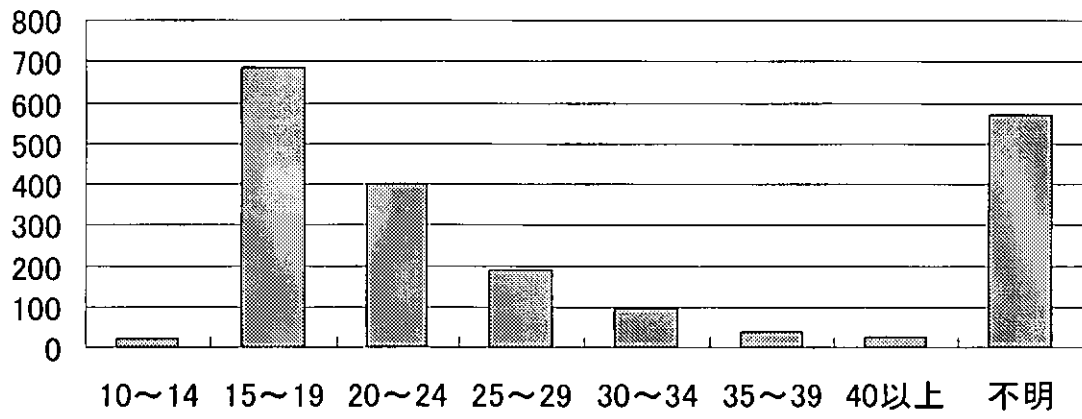


図5 相談者の年代

表1 相談内容の分類結果

	カテゴリー	実数	%
症状	自覚症状	912	45.2
	症状	185	9.2
	性器	133	6.6
	胸	8	0.4
	膣分泌液	6	0.6
	おりもの	330	16.4
	生理・排卵	160	7.9
	不正出血	114	5.7
	精液・射精	82	4.1
	coronal papillae	75	3.7
STD	性器クラミジア感染症	178	8.8
	淋菌感染症	45	2.2
	梅毒	27	1.3
	性器ヘルペスウイルス感染症	47	2.3
	尖形コンジローマ	94	4.7
	トリコモナス症	10	0.5
	カンジダ症	80	4
	HIV感染症/エイズ	119	5.9
	毛じらみ症	18	0.9
	B型・C型肝炎	15	0.7
	感染経路	261	12.9
	同性間性的接触	10	0.5
	予防法	46	2.3
	全般・その他	140	6.9
検査・治療	検査法・治療法	306	15.2
	検査代・治療費	67	3.3
	検査・病院の信頼性	55	2.7
	検査場所・病院の場所	59	2.9
セックス全般	セックス	150	7.4
	妊娠・不妊	156	7.7
	中絶	23	1.1
	ピル	13	0.6
	避妊	19	0.9
	基礎体温	27	1.3
	コンドーム	31	1.5
	マスターベーション	64	3.2
	コミュニケーション	44	2.2
セクシュアリティ	同性愛	1	0
	他機関紹介	14	0.7
	その他	211	10.5

※相談内容は各カテゴリーが重複しているため、パーセンテージの分母は全てメールの総件数である

図6. 健康相談室・相談者(男女比)

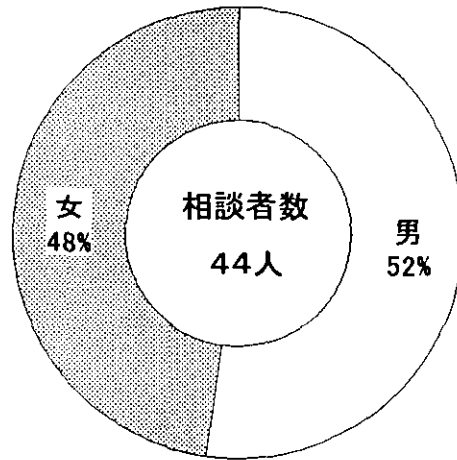


図7. 相談者男女別・年齢別構成

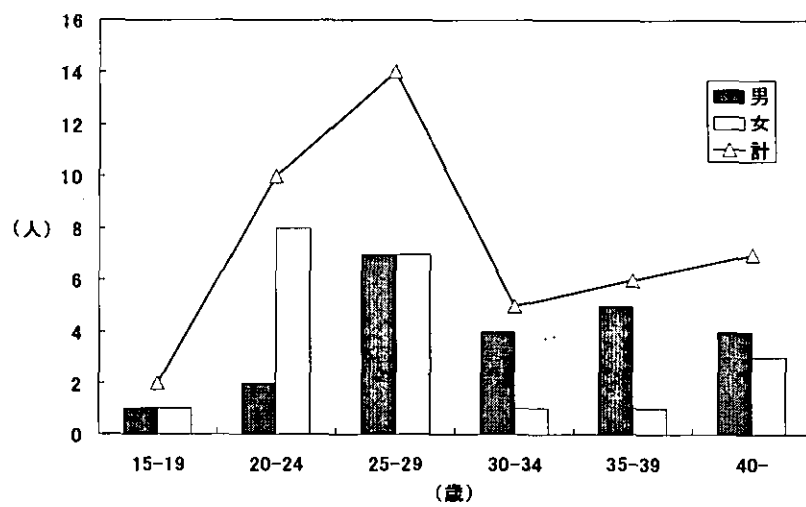


図8. 現在のセックスパートナー数

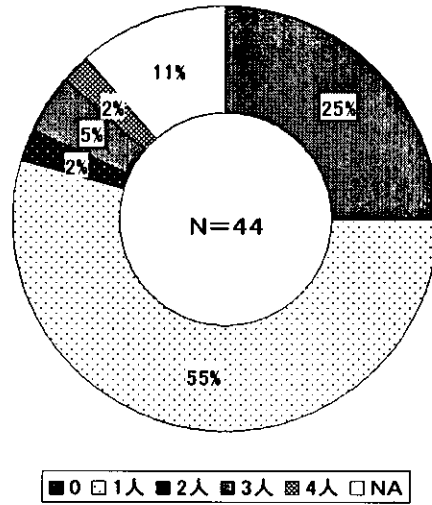


図9. 過去のセックス・パートナー数

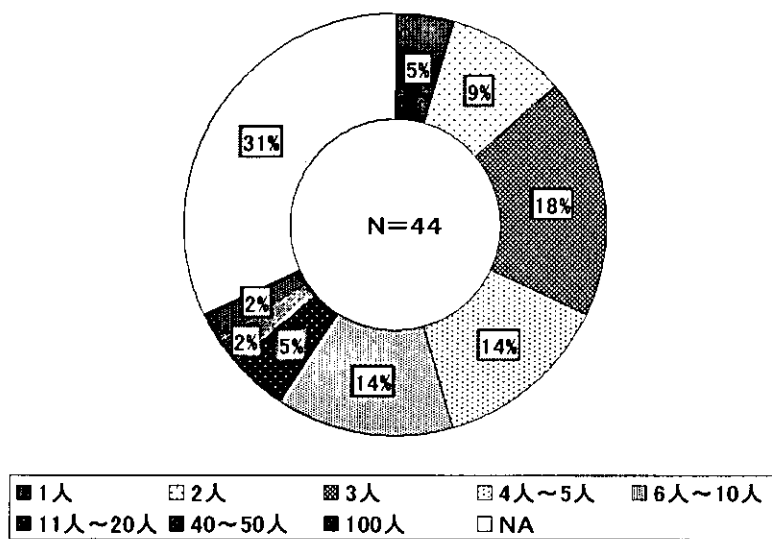


図10. 健康相談室情報取得の手段

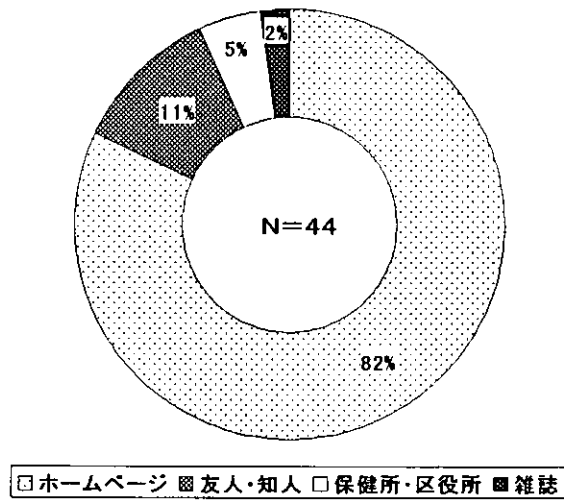
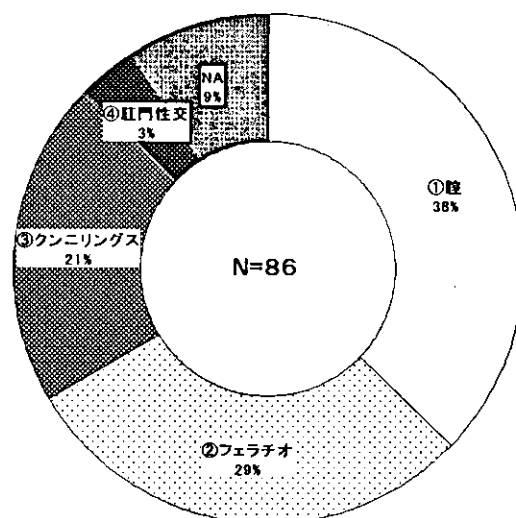


図11. セックスの種類(複数回答)



平成15年度健康相談室 相談者検査結果		HSV1型抗体	HSV2型抗体	IgA	IgG	クラミジア ロシユPCR	淋菌
+	男	11	2	3	9	2	0
	女	9	2	3	4	1	0
	計	20	4	6	13	3	0
±	男	0	0	0	1		
	女	1	0	0	2		
	計	1	0	0	3		
-	男	11	20	18	11	20	22
	女	11	19	18	15	19	20
	計	22	39	36	26	39	42
合計	男	22	22	21	21	22	22
	女	21	21	21	21	20	20
	計	43	43	42	42	42	42

平成15年度健康相談室 相談者検査結果		梅毒 ガラス板法	梅毒 TPHA法	HBs抗原	中～高リス ク型 HPV	低リスク型 HPV	ヘルペス 1型
+	男	1	1	0	0	0	0
	女	0	0	0	6	1	0
	計	1	1	0	6	1	0
±	男						
	女						
	計	0	0	0			
-	男	20	20	20	2	2	19
	女	21	21	21	14	15	20
	計	41	41	41	16	17	39
合計	男	21	21	20	2	2	19
	女	21	21	21	20	16	20
	計	42	42	41	22	18	39

平成15年度健康相談室 相談者検査結果		ヘルペス 2型	HCV	HIV	のど クラミジア	のど 淋菌
+	男	0	0	0	0	1
	女	0	0	0	0	1
	計	0	0	0	0	2
±	男					
	女					
	計					
-	男	19	21	22	1	0
	女	20	21	20	2	1
	計	39	42	42	3	1
合計	男	19	21	22	1	1
	女	20	21	20	2	2
	計	39	42	42	3	3

平成15年度健康相談室・相談者 質問票集計表

○来室者男女別年齢比

年齢	男	女	計
15-19	1	1	2
20-24	2	8	10
25-29	7	7	14
30-34	4	1	5
35-39	5	1	6
40-	4	3	7
計	23	21	44

○婚姻状況

	男	女	計
未婚	15	16	31
既婚	8	5	13
計	23	21	44

* 既婚には同棲1、別居1、離婚3を含む

○初めてのセックス

年齢	男	女	計
14	0	1	1
15-19	11	11	22
20-24	7	3	10
25-29	2	1	3
31	0	1	1
NA	3	4	7
計	23	21	44

○セックスの種類(複数回答)

	男	女	計
①膣	15	17	32
②フェラチオ	11	14	25
③クニニリングス	8	10	18
④肛門性交	2	1	3
NA	5	3	8
計	41	45	86

○来室のきっかけ

	男	女	計
ホームページ	21	15	36
友人・知人	1	4	5
保健所・区役所	1	1	2
雑誌	0	1	1
計	23	21	44

○セックスの種類(複数回答)

	男	女	計
①膣	15	17	32
②フェラチオ	11	14	25
③クニニリングス	8	10	18
④肛門性交	2	1	3
NA	5	3	8
計	41	45	86

○現在のパートナー数

	男	女	計
0	8	3	11
1人	9	15	24
2人	1	0	1
3人	2	0	2
4人	1	0	1
NA	2	3	5
計	23	21	44

○過去のパートナー数

	男	女	計
1人	0	2	2
2人	3	1	4
3人	2	6	8
4人~5人	4	2	6
6人~10人	5	1	6
11人~20人	0	2	2
40~50人	1	0	1
100人	1	0	1
NA	7	7	14
計	23	21	44

○現在のセックスの回数

	男	女	計
0	2	0	2
週1~2回	5	4	9
月1回	2	2	4
月2~3回	4	8	12
月4~5回	1	1	2
年数回	2	0	2
その他	0	1	1
NA	7	5	12
計	23	21	44

○同性とのセックス

	男	女	計
あり	3	0	3
なし	17	20	37
NA	3	1	4
計	23	21	44

○外国人とのセックス

	男	女	計
あり	9	2	11
なし	12	17	29
NA	2	2	4
計	23	21	44

○ドラッグ使用

	男	女	計
あり	0	1	1
なし	22	20	42
NA	1	0	1
計	23	21	44

相談前質問用紙

このたびは、“性の健康相談室”へお出で下さり、誠にありがとうございます。
当相談室は皆様の性についてのお悩みを十分お聞きし、できる限りその解決に、
ご協力するよう努力致します。

当相談室にいる時間を十分ご活用になり、これからの皆様の健康維持に役立
てて頂きたいと思えます。プライバシーを固く守り、相談及び検査の費用は一
切頂きませんのでご安心下さい。

できる限り時間を有効に活用する目的で、相談前に次のご質問をしますので、
差支えない範囲でお答え頂けましたら幸いです。よろしくお願い致します。

(財)性の健康医学財団
会頭 阿曾 佳郎

来院日 年 月 日

ID 番号 (当財団で記入します)	
ふりがな：	昭、平
氏名：	生年月日： 年 月 日
ご住所：〒	
電話番号：ご自宅	携帯
：勤務先	
E-mail：	

1. “何によりこの相談室について知りましたか” ①財団のホームページ
 ②講演会 (名: _____) ③雑誌 (名: _____)
 ④その他 (名: _____)
2. 職業 ①学生 ②無職 ③会社員 ④自営業 ⑤教職
 ⑥農・漁業 ⑦商業 ⑧フリーター ⑨主婦 ⑩その他
3. 最終学歴 ①中学 (卒、中退) ②高等学校 (卒、中退)
 ③大学 (卒、中退) ④大学院 (卒、中退)
 ⑤各種学校 (卒、中退) ⑥その他 (_____)
4. 婚姻状況 ①未婚 ②既婚 ③離婚 ④同棲
5. 子供 ①有 _____人 ②無
6. 初めてのセックス _____歳
7. セックスパートナー 現在_____人、現在のパートナーの年齢
 過去_____人 _____歳
8. セックスの回数 週_____回、月_____回、年_____回
9. セックスの種類 ①膣性交 ②フェラチオ ③クニニリングス
 ④肛門性交 ⑤その他 (_____)
10. 同性とのセックス ①有_____人、過去_____人 (_____年前)
 ②無
11. 外国人とのセックス ①有_____人 場所: 国内/外国
 ②無 (国名_____)
 同性 有_____人、 ②無
12. ドラッグ使用 ①有 ②無

13. 他人の血液に触れた経験 ①有 ②無

14. 手術歴 ①有（内容 ）
 ②無

15. 輸血歴、血液製剤の使用歴
 ①有（内容 ）
 ②無

16. 来室の目的（現在の悩み）

性感染症（STD）についての質問用紙

1

質問	性感染症は性器と性器との接触がなければうつらない。(○・×)
----	--------------------------------

2

質問	性感染症がうつると必ず自分に分かる病気の症状が出る。(○・×)
----	---------------------------------

3

質問	性感染症は一度医師に受診すれば直ぐ診断がつく。(○・×)
----	------------------------------

4

質問	性感染症はすべて薬でなおせる。(○・×)
----	----------------------

5

質問	性感染症は症状がなくなれば治癒したと言える。(○・×)
----	-----------------------------

6

質問	性感染症は一度なおれば、同じ病気には2度とかからない。(○・×)
----	----------------------------------

7

質問	性感染症には予防法がある。(○・×)
----	--------------------

8

質問	性感染症にかかると被害を受けるのは感染者本人だけである。(○・×)
----	-----------------------------------

9

質問	性感染症にかかっても、風邪などと同じくひどくならなければ治療しなくてもなおる。(○・×)
----	--

10

質問	パートナーが一人だけの人は性感染症の危険は少ないとはいえない。(○・×)
----	--------------------------------------